ナズナ

【分類】　アブラナ科　2年草
【別名】　ぺんぺん草
【名前の由来】和名なずなの由来は諸説あり、早春に開花して夏になると枯れることから「夏無き菜」、つまり夏無（なつな）から変化したという説。
撫でたいほど小さく可愛い花（菜）の意味から、「撫で菜（なでな）」から転訛したという説。
「ぺんぺん草」は三味線を弾く擬音語で、花の下についている果実の形が三味線のバチに似ていることから名付けられている。

❖ 葉　冬の頃、根生葉（こんせいよう）は、地面に接して放射状に広がる。
春の七草の一つで若葉は食用になる。

❖ 花　3～7月、4枚の白い花弁を持つ直径3㎜ほどの小さな花を多数、花穂につける。
下から上へと次々に花を咲かせ、種子が形成される間も、先端部では次々とつぼみを形成して開花していく。

❖ 実　ハート形の角果（かくか）とよばれる果実は、左右2室に分かれていて、それぞれの室に5-6個の種子が入っている。
ハートを引っ張れば、しゃらしゃらと鳴る楽器のようである。

なずな
1972年12月

【節子さんとナズナ】

結婚を決めた時から、生まれてくる子供の名前は、女の子なら、なずなと決めておられたそうです。
ナズナは白い小さな可憐な花を咲かせ、たとえ踏まれても、しっかり蘇生する。そんな母の愛情と願いが込められています。